

2023年度堺第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

相原町はKDBデータより健診受診率が町田市全体の46.2%に対して33.3%と低く、受診推奨者のうち医療機関未受診者・未治療者の割合も町田市全体に比べやや高く、微増傾向にある。要因として近隣の医療機関の少なさや急坂の地形と交通空白地区など移動手段が確保できず、受診につながらない可能性がある。高齢化に伴う運転免許の返納により外出を控え、閉じこもりになるリスクもある。未受診の戸別訪問調査をすることで状況把握とともに介護予防普及啓発を働きかけていく必要がある。

【現状と課題②】

武蔵岡アパート(武蔵岡団地)は全戸数787戸のうち518戸に高齢者が住み、このうち262戸が独居高齢者となっている。近隣には店舗が少なく、歩行に支障をきたしている高齢者は生鮮食品等があるスーパーへバスやタクシーなどで移動しなければならない現状がある。高齢者支援センターと地域住民とのつながりを構築し、継続的に支えられる仕組み作りを検討するため、自治会・民生委員・老人会・住民に向け、移動支援プロジェクトを立ち上げ、福祉事業所協力のもと車両提供いただき移動支援を実施してきたが、担い手の発掘や仕組みづくりなどの課題があり、住民主体の本格実施に至っていない。課題解決に向けた取り組みが引き続き必要になる。

また、武蔵岡アパートの相談件数割合は相原町の約40%であり、精神疾患、老々介護、8050問題、認知症、権利擁護、生活支援、孤独死への不安と複合的である。独居高齢者も半数以上であることから、見守り体制の整備や高齢者支援センターとの顔が見える関係づくりに努め包括的に支えられるセーフティネット的な仕組み作りを長期的に行う必要がある。

【現状と課題③】

総合相談では、近隣に専門の医療機関がない中、地域の住民から「認知症になつたらどのように対応したらよいのか?」「認知症の予防について教えてほしい。」という相談や、精神疾患や障がい、経済困窮などの複合的な相談が増加しており、高齢者支援センターだけではなく、多様な機関との連携を強化していく必要がある。関連機関や地域の見守りネットワーク等と情報共有等や顔の見える関係づくりを継続して構築し、包括的支援強化をしていく必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

	取組名①	自身の健康に关心を持てるきっかけづくり
計 画	目標	自身の健康に关心を持つ高齢者が増え、自ら介護予防活動を行う住民が増える。
	2023年度の取組	<p>① 未受診者(70件)への戸別訪問調査の実施</p> <p>② 介護予防月間で相原全域の地域住民向けに介護予防地域イベントの開催</p> <p>③ 坂下町会の自治会館活用について住民から相談があつたことから、会館活用として町トレ立ち上げについて働きかけてく。</p> <p>中相原町会は町トレ自主グループがないため、立ち上げをめざす。</p>
	活動指標	<p>① 訪問調査の訪問戸数</p> <p>② 介護予防地域イベントの開催数</p> <p>③ 町トレ自主グループの立ち上げ数</p>
	目標値	① 50件②1回③2か所
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

	取組名②	武蔵岡アパートの高齢者が安心して生活するための仕組み作り
計画	目標	買い物移動支援の立ち上げと見守りの仕組みづくり
	2023年度の取組	(2023年度に実施する取組を具体的に記載してください。)
		① 移動支援の担い手の確保や仕組みづくりなどの課題解決に向けてささえ合い連絡会を開催し、移動支援を本格実施させる。 ② 支援センターと武蔵岡アパートの住民が顔の見える関係づくり・相談できる環境づくりを継続して行う。武蔵岡住民を対象に「終活ノート武蔵岡バージョン」普及についてのささえあい連絡会開催する。ささえあい連絡会では、あんしん連絡員への登録呼びかけも行っていき、見守りへの意識を高めていく。
	活動指標	
		① 買い物支援に関するささえあい連絡会の開催回数。 ② 終活ノートに関するささえあい連絡会の開催回数。
	目標値	① 1回 ②1回
実績	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

取組名③		認知症や精神疾患などの複合的な問題に対する支援体制を強化する。	
計 画	目標		
	認知症予防についての知識を持ち、予防活動を行う住民が増える。 支援者の認知症や複合的な問題に対する支援能力が向上する。		
	2023年度の取組		
	① 「認知症予防カフェ」の名称で認知症当事者をはじめ、地域住民向けにカフェを開催。カフェの中では社会交流のほか、ちょい足し講座を参考に認知症予防に関する内容を取り入れて開催していく。 ② 地域ケア個別会議で出た課題をもとに、ケアマネジャーや民生委員などの支援者に向けて、認知症の方の運転についての地域ケア推進会議の開催。 ③ 鶴川サナトリウム病院に講座を依頼し、認知症の方のアセスメントに関するケアマネジャー向けの勉強会の開催 ④ 複合的ケースについて障がい者支援センターや保健所、まちだ福祉〇ごとサポートセンター等の各専門機関と関係構築を図れるよう連携会議の場を設け、情報共有や事例検討を行う。		
	活動指標		
	① 認知症予防カフェの開催数 ② 地域ケア会議の開催数 ③ 勉強会の開催数 ④ 関係機関との連携会議の開催数		
	目標値	① 1回 ②1回 ③3回 ④1回	
	実績値		
	2023年度の成果		
	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
実 績	2024年度に向けた課題		
	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

2023年度堺第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

2020年以降、新型コロナ感染拡大予防のため、高齢者同士が集まる機会の自粛が続いたことにより、地域活動の一部が停滞したままとなっている。田端地区、第三町内会の老人会は活動が先細りしている傾向がある。参加者が減少し、解散に至った活動も出てきている。上馬場・下馬場・沼団地・アパガーデンパレス多摩境の見守りネットワークは、この3年定例会の開催ができておらず、活動存続が危ぶまれている。上小山田の支え合い連絡会は、2022年度の春に1回会議を開催したのみである。

活動団体の中には、コアメンバーの高齢化が進行しているところも多く、現状の把握と、再開に向けての後方支援が必要な状態となっている。

【現状と課題②】

小山地区は2000年以降、大型マンションや新興住宅地の開発が進んでいる地区である。10年前と比較すると、新規の相談が増えており、地方で暮らしていた親を心配し、呼び寄せたことに伴う相談も増えた。呼び寄せ相談率は、2010年度 7.8%、2021年度 12.3%となっており、親を介護する世代が増えてきていることに加え、「コロナ禍」が拍車をかけたような状況になっている。

同居をスタート後に介護の大変さに気づき、切迫してから相談されることも多々あるのが現状となっている。若い世代へ向けて、支援センターが高齢者相談の窓口であることの周知や、認知症や介護に関する関心を持っていただけるような工夫が必要となってきている。

【現状と課題③】

エリア全体の特徴として、「高齢化率の低さ」に加え、「年少人口割合の高さ」がある。町田市全体での年少人口割合が 11.7%であるところ、堺 2 ではどの町でも 15~17%である。子どもに関わるボランティア(まちとも、登下校見守り等)のニーズはかなり高いが、担い手が不足している状態であり、地域全体の大きな課題となっている。これまで元気な高齢者には、まちともや登下校見守り、読み聞かせなどの活動を紹介させていただいており、それらは高齢者自身の生きがいにもなっていた。多世代での交流が高齢者にもたらす「介護予防の効果」があった。

「コロナ禍」以降、感染拡大予防のため、高齢者と子どもの接点が少なくなっており、自然なかたちで交流する機会が減ってきていている。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①	停滞した地域活動への後方支援	
計画	目標	
	活動停滞している老人会・見守りネットワーク・支え合い連絡会の現況を把握し、後方支援を行うことで、活動の再スタートを切ることができる。	
	2023年度の取組	
	田端地区・第三町内会の老人会については、会長に挨拶に伺い、現況を確認する。 講師不足やメンバー減少等での困りごとがあれば、解決に向けて助言していく。 上馬場・下馬場・沼団地・アパガーデンパレス多摩境の見守りネットワークについては、会長に挨拶に伺い、今後の展開について確認する。5~6月に開催予定の、見守り交流会の参加を促し、見守りの意識向上に努められるよう図る。 上小山田の支え合い連絡会(上小山田ささえ愛会)については、会長もしくは副会長に挨拶に伺い、今年度の予定確認を行っていく。メンバー減少等の困りごとがあれば、解決に向けて助言していく。	
実績	活動指標	
	① 挨拶に行くことができた団体数 ② 活動停滞中の見守りネットワーク団体が、見守り交流会に出席した数	
	目標値	① 挨拶に行った数 5 団体、②見守り交流会出席 2 団体
	実績値	
2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)	
2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)	

	取組名②	30～50歳代に向けた、支援センター情報発信
計 画	目標	これから地方在住の親を呼び寄せる可能性のある世代(30～50歳代)が、支援センターの相談窓口としての機能や、開催するイベントなどについて知る機会が増える。
	2023年度の取組	法人HPの更新の継続とともに、小山・小山ヶ丘・相原地区の子育て世代が主に利用する情報発信サイト(小山ヶ丘の住民が立ち上げたもの)である「陽だまりの場所」に掲載させていただき、随時情報更新を行っていく。主に認知症に関わる企画・イベントを中心に、ブログ掲載して周知を図り、関心を持っていただけるように働きかけていく。 認知症や後見制度、詐欺被害等のイベントを開催する際は、ハイブリッドでの開催を試み、オンライン参加が可能となるようし、法人HPや「陽だまりの場所」にて周知していく。
	活動指標	①「陽だまりの場所」ブログ掲載数 ② ハイブリッド開催の家族介護者教室講座開催数
	目標値	①ブログ掲載数5回、②講座開催数1回
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題	
	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)	

	取組名③	多世代交流機会の促進			
計画	目標	高齢者が、子どもやその親世代と交流する機会が増えることや、子どもに関わるボランティア活動に参加することにより、高齢者自身の介護予防効果がもたらされる。			
	2023年度の取組	2022年度に光明寺を活動拠点とした、多世代が交流できるイベントがいくつか開催された。今年度も実行委員会メンバーとして参加し、企画から関わっていく。小山地区については、地区ミーティングを通して、子どもクラブ「さん」や青少年健全育成の方ともつながりができているため、小さい規模でのイベントを協働で行うことも検討していく。イベントを介して、高齢者と子ども、その親世代とが交流する機会を作っていく。子どもクラブ「さん」や、学校ボランティアコーディネーターとの情報交換を適宜行い、子どもに関わるボランティア活動のニーズがあれば、元気な高齢者とのマッチングにつなげていく。			
	活動指標	<p>① 支援センターが高齢者に紹介できた、多世代交流イベントの回数 ② 支援センターの働きかけで、ボランティア活動に結び付いた高齢者数</p> <table border="1"> <tr> <td>目標値</td><td>① 紹介した回数 3 回、②ボランティア活動者数 3 人</td></tr> <tr> <td>実績値</td><td></td></tr> </table>	目標値	① 紹介した回数 3 回、②ボランティア活動者数 3 人	実績値
目標値	① 紹介した回数 3 回、②ボランティア活動者数 3 人				
実績値					
実績	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)			
	2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)			

2023年度忠生第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

忠生地区の町内会・自治会のない地域全戸に自身の関心ごとや人との関わりについてアンケートを実施したところ、地域のつながりが希薄ではあるものの、一番の関心は防災に関することだった。また、近隣の団地においても防災訓練がいつの間にか消滅しているなど不安を抱えていることから、防災についての取り組みをしていく必要がある。

お買い物バス「かしのみ号」の定期運行を開始して1年が経過し、利用希望も増え、コースの拡大や増便を行っている。フォローアップを含めモニタリングをかさねることで移動支援の仕組みを確立し、新たな移動支援の取り組みに向けて他の地区でのニーズを把握する必要がある。

【現状と課題②】

担当エリアの中で最も高齢化率の高い小山田桜台は、支援センターの周知活動や住民との定期的な話し合いを行っているが、具体的な生活課題の解決には至っていない。5年後、10年後を見据えた住民が支え合う仕組み作りを継続していく必要がある。

小山田桜台以外にも高齢化が進んでいる地域があるが、支援センターを知らない住民も多く、相談や地域のグループ活動にもつながりにくい状況にある。地域の中で気軽に相談でき、必要な際に支援センターへ相談できる支援体制を構築し、強化することで地域住民と支援センターのつながりを深める必要がある。

【現状と課題③】

虐待の報告を受けている事例の中で最も多いのが高齢者と障がいを持つ子の世帯である。8050問題等複合的な課題を抱える世帯が増加しており、また、個々の世帯が抱える課題も多様化している。早期発見、早期介入に繋げるために、また、包括的に課題を把握し支援できるよう行政、医療機関、高齢者・障がい者関係事業所、警察などと連携、協働することで課題解決を図る仕組み作りが必要である。

虐待事例に限らず、困難な事例等について、ケアマネジャーが家族全体を支援対象と捉えて、家族が抱える問題を解決できるよう、ケアマネジャーのスキルアップを図る必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名① 地域の関心事やニーズの把握及び対応	
計 画	目標 町内会・自治会のない地区において関心の高い、防災や移動支援、地域づくりに係る課題解決を図る。
	2023年度の取組 ・忠生地区内で特に関心のある防災に関する講座等を開催する。 ・忠生地区にて定期運行を行っている住民主体で運営する移動支援の安定継続で きる仕組みを確立し、忠生地区以外の外出困難な地区の実態把握をする。 ・忠生地区を含め見守り普及啓発講座の継続開催に向けた働きかけをする。
	活動指標 ①防災に関する講座等の開催数 ②住民・事業者と共に移動支援実施運行中のお買い物バス「かしのみ号」実行委員 会の開催数 ③高齢者見守り普及啓発講座(レギュラー・ミニ・交流会)開催数
	目標値 目標値 ①1回 ②6回 ③3回
	実績値
	2023年度の成果 (目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題 (2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入して ください。)

	取組名②	高齢化の進む地区を自分ごとと考え自立するためのコミュニティーづくり
計 画	目標	小山田桜台をはじめ高齢化の進む地区で高齢者自身の困りごとや地域課題を自分ごととして解決するための取り組みや、住民が共に支え合うための地域コミュニティーづくりを目指す。
	2023年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小山田桜台地区での自治会、社会福祉協議会、UR、介護保険事業所等と連携し、商店街で支援センターを身近に感じてもらうための出張相談会の定期開催の継続と下小山田地区等、他地区での出張相談会の開催。 ・フレイル予防のための講座の開催。 ・小山田桜台地区での自治会、関係団体と連携するための情報交換、課題共有の場の継続。 ・エリア内の中学校や学童保育等での認知症サポーター養成講座の開催。
	活動指標	<ol style="list-style-type: none"> ①出張相談会の開催数 ②フレイル予防の普及啓発講座の開催数 ③地域ケア推進会議(地域支え合い連絡会)の開催数 ④認知症サポーター養成講座の開催数
	目標値	①6回　②2回　③6回　④3回
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

	取組名③	地域の専門職と連携ができるネットワークの構築
計 画	目標	地域の専門職の状況を把握し、問題を解決できるネットワークづくりを目指す。
	2023年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・8050 問題では、親に対する暴力等による虐待や、親が認知症や疾患などによって子との同居が困難になるなどの問題が起こる可能性があり、起こり得る理由や背景を知ることで未然に防ぐことが可能になるため、相談機関等（行政、医療機関、障がい者関係事業所、警察等）と連携した解決に向けた情報交換会を支援センター主催で継続的に開催する。 ・ケアマネジャーを対象に、事例検討会を含む勉強会を開催することで、家族全体を支援対象と捉え、情報収集や支援することの再認識を促していく。
	活動指標	
	①相談機関等との情報交換会の開催数	
	②担当地域のケアマネジャーに向けた勉強会の開催数	
	目標値	①2回　②3回
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

2023年度忠生第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

2021年度から「8050問題」等、社会的孤立に関する課題解決に向けて関係機関と連携しながら取り組んできた。近年経済的に困窮している高齢者や高齢者を含む世帯が増加している。ライフラインがストップしてしまってからの相談、家賃滞納による強制執行が目前に迫ってからの相談が多い。年金額によっては生活保護申請の対象にならず、負債を抱えている状況では適切な医療・介護につなぐことも困難である。このようなケースの対象者は、認知症等のため判断能力が低下しているにも関わらず適切な支援につながっていないことが多く、近隣住民に迷惑が及んでしまい苦情があがることがあり地域課題となっている。

【現状と課題②】

忠生第2エリア内にある大型集合住宅(山崎団地、町田木曽住宅)は賃貸の物件が圧倒的に多い。同じ大型集合住宅でも分譲のエリアは定住率が高く、住民同士の助け合いや見守りに対する意識が高く自主的な活動が多く見られるが、賃貸のエリアは住民の入れ替わりがあるためか助け合いや見守りに関する自主的な活動があまり見られない。今後高齢化率が上がり、独居高齢者や高齢者のみ世帯、孤食者、経済的困窮者等が増加することを考えると、地域住民が主体となる通いの場や見守り体制を増やし、充実させていくことが求められている。

【現状と課題③】

高齢化率が高く、生活習慣病も多い。未受診者は約2.5%となっており、医療中断ケースも多く、状態の悪化を招いているケースが増えている。圧迫骨折などの筋、骨格疾患で突然動けなくなると、5階建ての団地にエレベーターがないため日常生活に支障をきたすケースも増えている。要支援、要介護認定者が急増し、行政サービスだけで対応する事が難しくなってきている。高齢者自身が健康づくりに対する意識を高めていくために、オーラルケアも含めた介護予防の普及啓発活動を行う必要がある。活動が休止しているグループもあり紹介出来る社会資源が少ない、自主グループ再開の支援、新規の自主グループの立ち上げ、オンラインを活用した交流を図る必要がある。認知症、認知機能低下者が増え、地域住民とのトラブルが増えているため住民の理解、協力を図るために人材の育成を行っていく。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

	<p>取組名① 社会的に孤立した状況を未然に防ぐ。</p>				
	<p>目標</p> <p>複合的な課題を有する住民に対して他機関との協働した支援を継続しつつ、ライフラインが断たれる・住まいを失う等の状況に陥ることのないよう、複合的な課題を有する住民を多機関の協働により支援することができる。</p>				
	<p>2023年度の取組</p> <p>① 他機関と連携した支援を行っているが、対象となるケースは後を絶たず、目標とする生活に到達するまでに時間を要し、近隣住民とトラブルになるケースも発生している。心身状況が悪化しても住み続けることができる地域づくりのために、医療、福祉関係者だけではなく、地域住民等も含めた検討の場を持つ。</p> <p>② 料金滞納によるライフラインのストップ、家賃滞納による強制退去を未然に防ぐことができないか、関係機関の立場でできること、できないことを情報共有する。</p>				
	<p>活動指標</p> <p>① 地域ケア個別会議の開催</p> <p>② JKK・UR、水道局等と高齢者の身体状況などについての情報交換会の実施。</p>				
	<table border="1"> <tr> <td>目標値</td><td>① 年3回 ②年3回</td></tr> <tr> <td>実績値</td><td></td></tr> </table>	目標値	① 年3回 ②年3回	実績値	
目標値	① 年3回 ②年3回				
実績値					
	<p>2023年度の成果</p> <p>(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)</p>				
	<p>2024年度に向けた課題</p> <p>(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)</p>				

取組名②		大型集合住宅特有の課題解決にむけ、住民が主体となった通いの場、見守り体制を増やす。
計画	目標	通いの場や見守り体制を増やすことで、高齢者の小さな変化に気づくことができ、問題の複合化を防ぐ。
	2023年度の取組	<p>① UR、JKKとの連携を更に深め、協働した集いの場、相談の場づくりを目指す。</p> <p>② 支援センターの事務所が移転し山崎団地名店会に加入した。名店会は地域住民が立ちよる場所であるため連携を深めるとともに、見守り講座を実施し高齢者の見守り等に関して理解を深めていただくようする。</p> <p>③ 地域への関心が低く、助け合いや見守りに関する自主的な活動がない地域での持続可能な見守り体制を強化するため、当該地域での見守り会議の立ち上げ支援を行う。</p>
	活動指標	<p>① UR、JKKと協働した相談の場、集いの場づくりに向けた話し合いを実施。</p> <p>② 山崎団地名店会を対象とした見守り講座の実施。</p> <p>③ 新たな地域で見守り会議の開催。</p>
	目標値	① 年4回 ②年1回 ③年1回
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

取組名③		フレイル・介護予防普及啓発活動を行う。
計 画	目標	
	① フレイル、要支援者が少なくなる。 ② 通いの場が増え社会資源が増える。 ③ オンラインを活用した活動が出来る。 ④ 介護予防サポーターが増える。	
	2023年度の取組	
	① 介護予防普及啓発講座を行う。 ② 介護予防月間型イベント:多世代交流、測定会、介護予防の講演、福祉関係事業所との連携。 ③ みんなの輪・夢ガーゼプロジェクトの実施。 ④ オンラインを活用した支援:つながる☆ダンス・オンライン相談拠点の実施。 ⑤ 通いの場づくり・町トレの立ち上げ支援。 ⑥ 休止している自主グループ再開支援。 ⑦ 自主グループ内相互支援促進のための活動	
	活動指標	
	① から⑥に対しての企画、実施回数。	
	目標値	① 2回 ②1回 ③1回 ④10回 ⑤2回 ⑥1回⑦1回
実 績	実績値	
	2023年度の成果	
	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)	
2024年度に向けた課題		
(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

2023年度鶴川第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

鶴1エリアは市内の中で成人健康診査受診率が1番高いが、『地域活動に参加している』、『交流する友人がいる』割合は平均より低く、独自の取り組みや個人での活動を行っている人が多い現状がある。なかでも野津田町はエリアの中で2番目に高齢化率が低いのに対して相談割合が1番高く、健康や介護予防に対する取り組みが十分に行えていない可能性がある。また金井ヶ丘は高齢者人口比に対しての自主グループが最も不足している。両地域ともに面積が広く、活動できる場所に偏りがあるため身近な環境で人と交流しながらフレイル・介護予防に取り組むことが難しい現状にある。そのためこの野津田町、金井ヶ丘を重点地域と設定し、フレイル・介護予防に取り組んでいく必要がある。また地域のニーズを把握し、身近にある既存の資源を活用することで意欲・意識の向上に繋げていく。

【現状と課題②】

高齢者を含め家族として複雑化した課題を抱える世帯が増えており、それぞれが個人として尊重される生活を送れるよう、権利擁護支援を強化していく必要がある。エリア内の地域は高齢者人口に比例する形で虐待・ヒヤリハット件数が増加傾向にある。そのうち70%以上の被虐待者が要介護認定を受けている。このような状況下で早期発見・対応のみならず、未然に防ぐ取り組みも求められる。専門職種、多機関との協働による包括的支援体制を強化しつつ、地域住民の支援センターの理解や権利擁護の認識を高め、地域での抑止力の強化に繋げていく。またこのようなケースを支援していくセンター職員は個々のスキルとチームアプローチ力の向上に努めていくとともに自身の身体的・精神的健康状態を維持していく必要がある。

【現状と課題③】

近年、コロナの影響で地域での見守り意識の低下が危惧されている。支援センターではあんしんキーホルダー普及・利用促進に力を入れ、年々登録数を増やしているが、75歳以下の登録者が少ない現状や地域によって意識の差もみられている。地域別の登録者割合は小野路町が一番低く、次に金井ヶ丘、金井、大蔵町が同値となっている。支援センターであんしんキーホルダー自体の認知度が低いこともあるが、あんしんキーホルダーに対して誤ったイメージを持っていることや、自分は大丈夫との主観的な安心から必要を感じていない方がいることも要因である。また地域活動が停滞していたことで支援センターと自治会・老人会等の団体との関りも減っていたため、以前のような地域との繋がりを回復させ、多世代が地域でさりげなく互いを見守る意識作りの再構築が必要である。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

	取組名①	地域資源を活用したフレイル・介護予防の推進
計 画	目標	地域の資源を活用することや住民への意識・意向調査を行うことで身近にフレイル・介護予防を意識し、取り組むことのできる環境を作る。
	2023年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・野津田町、金井ヶ丘で地域資源(企業や店舗等の場所や専門職等の人材など)を活用して講座等を開催し自主グループ立ち上げ支援を行う。 ・金井ヶ丘、金井での実態把握時に介護予防・健康づくりに対する意識調査(聞き取り調査)の協力依頼を行い、結果の集計・分析を踏まえた普及啓発の取り組みを検討する。 ・地域ケア推進会議で取り組んだフレイル予防活動を継続し、栄養面から取り組める高たんぱくレシピを地域の店舗や事業所等へ常設させもらう(月1回更新)。 ・既存の自主グループに対しても定期的な活動状況確認と継続支援を行っていく。スマホを活用したメンバー間での情報共有を推進していく。
	活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ①講座開催数、自主グループ立ち上げ支援回数 ②意識調査実施数 ③レシピ設置場所数 ④町ネットサポーター養成講座・オンライン交流会の開催
	目標値	<ul style="list-style-type: none"> ①各2回以上②15件以上/月(平均)③4か所以上 ④各1回
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

	取組名②	権利擁護の理解促進と包括的支援体制の強化
計 画	目標	地域住民、専門職等への普及啓発活動を通じて権利侵害の予防に繋げ、個々のケースには適切かつ迅速な支援が行えるようセンター内外の連携体制を構築する。
	2023年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 鶴川保健センター、鶴川障がい者支援センター、町田市社会福祉協議会、医療と介護の連携支援センター、鶴川第2高齢者支援センターの計6機関が参加する『鶴川圏域相談支援機関連携会議』を継続開催し、互いの機能を活かした効果的な連携を深めていく。 地域住民へ広報誌や講座等の開催を通じて、センターの機能を周知し、権利擁護について理解を促すことで、意識向上に繋げる。 地域のケアマネジャー向けに権利擁護に関する情報共有や事例検討などの勉強会を開催する。 職員の専門的スキル向上と健康維持のため、センター内でソーシャルワークや心理学の専門家によるスーパービジョンやメンタルヘルスの研修を実施する。
	活動指標	<ol style="list-style-type: none"> 「鶴川圏域相談支援機関意見交換会(連携会議)」開催回数 住民向けと専門職向けに権利擁護に係る普及啓発の実施回数 スーパービジョン・メンタルヘルス研修実施回数
	目標値	①4回②各1回以上③計4回
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

取組名③		見守りに対する意識・機能の回復とあんしんキーholderの普及・活用促進										
目標		地域の見守り意識・機能をコロナ前のように戻し、あんしんキーholderの利用促進を図ることで緊急時の早期対応に繋げ、地域で安心して生活ができる体制を作る。										
2023年度の取組		<ul style="list-style-type: none"> ・見守り活動を行う地域住民、団体に対して情報共有や理解を深める機会をもち、活動の成果ややりがいに繋げる。 ・小野路町・金井ヶ丘・金井・大蔵町でのあんしんキーholder活用促進ポスターの掲示場所を増やし、周知と登録会開催に繋げる。地域の会合・イベントへの参加や講座時の案内を通じてセンターの周知とキーholderを含めた見守り機能の必要性を伝えていく。 ・あんしんキーholderは前年度以上の年間登録数を目標に掲げ取り組んでいく。 ・2016年4月～2018年3月に新規登録している長期登録者に対して登録内容の確認調査を行い、情報の整合性を図る。 										
活動指標		<p>①見守り通信の発行と交流会(講座)開催 ②掲示場所の発掘③登録会の開催回数 ④あんしんキーholder登録件数 ⑤状況調査の実施</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">目標値</td><td style="padding: 5px;">①2回以上発行、1回以上開催 ②4か所以上 ③4回以上 ④14件以上/月(平均) ⑤実施</td></tr> </table>	目標値	①2回以上発行、1回以上開催 ②4か所以上 ③4回以上 ④14件以上/月(平均) ⑤実施								
目標値	①2回以上発行、1回以上開催 ②4か所以上 ③4回以上 ④14件以上/月(平均) ⑤実施											
実績		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">実績値</td><td></td></tr> <tr> <td colspan="2">2023年度の成果</td></tr> <tr> <td colspan="2" style="color: red;">(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)</td></tr> <tr> <td colspan="2">2024年度に向けた課題</td></tr> <tr> <td colspan="2" style="color: red;">(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)</td></tr> </table>	実績値		2023年度の成果		(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		2024年度に向けた課題		(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)	
実績値												
2023年度の成果												
(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)												
2024年度に向けた課題												
(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)												

2023年度鶴川第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

- ・認知症やフレイルに関する相談が増加しているが、家族の理解不足などから、早期での介入が出来ず、スムーズに介入出来ないケースが増えている。
- ・認知症サポーター養成講座受講者から、講座終了後どのように動けばよいのかわからぬいという意見が出ている。
- ・支援センターの職員が「認知症」を支援する地域活動の状況や課題を把握し、整理することで、ネットワークを強化し、早期の介入につなげていく必要がある。

【現状と課題②】

- ・高齢化率:鶴川 35.3%、三輪緑山 41.6%、三輪町 21.7%
- ・2022年度、自主グループ6グループが解散、6グループが休止となり、通いの場が減少した。原因として、リーダーの体調不良や、高齢化によるメンバーの減少、会場費が払えない等で、現状のグループ活動の継続が難しくなってきている。
- ・通いの場が減少し、運動・他者との交流機会が減り、心身機能の低下が進んでいる。

【現状と課題③】

- ・三輪地区にて地域住民より認知症高齢者の見守りについて不安があると声が上がっている。地区内に賃貸アパートも多く、圏域内でも2番目に単身高齢者の居住率が高くなっている。賃貸アパート居住の方は、地域の活動への参加も少ない為、直接話をする機会がない。
- ・集合住宅に居住し、町内会や老人会など地域活動に参加していない高齢者の見守りや、地域の活動の場への参加の促しが難しい状況となっている。
- ・活動拠点となる施設が少ない為、徒歩圏内で参加できる自生活動グループが立ち上がり難く、古くからの住民と新しく居住し始めた住民との交流の場が少ない等の課題を抱えている。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

	取組名①	認知症を受け入れる地域活動状況の把握
計 画	目標	地域活動を訪問し、活動状況などを把握することで、「(仮称)鶴2版Dマップ(認知症を持つ方でも参加が出来る社会資源マップ)」の次年度以降の作成に向けた情報収集を行う。
	2023年度の取組	
	①認知症の方が利用できる地域活動等を把握し、地域活動の活用が進むように、地域住民や地域を担当している専門職などへの情報提供が行えるようなツール「(仮称)鶴2版Dマップ(認知症を持つ方でも参加が出来る社会資源マップ)」の作成に向けた検討を行う。	
	②認知症の方が利用できる地域活動等に参加しながら、地域活動の活動状況や活動上の課題を把握していくと共に、防災への取り組み状況などの把握を行う。	
	活動指標	
	① 地域活動への訪問回数	
	② 認知症の方の受け入れ状況等共通の聞き取り事項が確認出来るように「聞き取りシート」を作成	
	目標値	① 5グループ以上に訪問②聞き取りシートの作成
	実績値	
実 績	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題	
	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)	

	取組名②	住民が気軽に参加し、継続的に活動できる通い場づくり
計 画	目標	① 通いの場を作り、運動や交流機会を増やす。 ② 既存の自主グループの活動が継続できるよう、支援センターとの関係性を深める。
	2023年度の取組	①三輪地区と鶴川団地で町トレやラジオ体操を行う自主グループを立ち上げる。 ②毎月1回、1グループは支援センター内複数専門職にて訪問し、自主グループの状況確認と、支援センターで作成している介護予防普及啓発等の講座の案内チラシをお渡しする。
	活動指標	① 自主グループ立ち上げ数 ② 既存の自主グループ訪問数
	目標値	①各地区 1 グループ ② 10 グループ以上
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

	取組名③	三輪地区居住単身高齢者のつながり作り
計画	目標	三輪地区内集合住宅に居住する単身高齢者のニーズを把握し、地域とのつながりを作る。
	2023年度の取組	<p>① 集合住宅に居住する 75 歳以上の高齢者に地域活動への参加の有無や活動の希望等のニーズ調査のアンケートを戸別訪問を行い実施する。</p> <p>② 引き続き、三輪地区内で行われている交流の場と自主活動団体の活動状況を確認し、センターとの関係づくりを行う。</p> <p>③ 町内会自治会、老人会、民生委員、介護保険サービス事業所、自主活動グループなどにアンケートの結果を報告し、今後の地域活動や見守りの仕組みづくりを検討するため、支え合い連絡会を開催する。</p>
	活動指標	<p>①ニーズ調査の実施 ②町内会自治会や老人会の活動状況を把握する為の訪問回数 ③支え合い連絡会の開催</p>
	目標値	①ニーズ調査実施 ②2 回以上 ③1回以上
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

2023年度町田第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

2022 年度に木曽森野都営住宅 3 棟にて実施した生活実態調査によると高齢世帯では夫の家事能力が低く、すべての家事を担っている妻が家を空けられない。妻は入院加療が必要な状態となつても、通院で対応せざるをえなかつたり必要な手術を受けられなかつたりした事例があった。高齢世帯における健康寿命の延伸のためには夫の家事能力が向上し、それぞれの自立支援が必要である。

【現状と課題②】

JAGES によると「社会参加が少ない」「友人と会わない」「うつ」が多く人との交流が少ないとで健康を害する高齢者が多い。また、原町田や中町地区では町トレグループの会場の定員により新規加入希望者がいても参加できない現状がある。

エリア内で通いの場の広報を行い、周知を行う必要がある。また、通いの場が不足しているエリアで、新規グループの立ち上げや、コロナ禍で活動が停滞している既存グループへの継続支援が必要である。

【現状と課題③】

2022 年度開催した家族介護者教室『認知症の家族への接し方』には定員を大幅に超える申し込みがあった。コロナ禍で人と接する機会が減り、家族介護者が相談する場が減り孤立しがちになっていることが推察される。また、毎月開催しているオレンジ cafe ポピーには介護に悩む家族やうつに悩む方の参加もあり、参加者同士の支えあいの場ともなっている。現在あんしん相談室で開催しているカフェを他地区でも開催し、家族支援や居場所・支えあいの場を増やす必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①	『男の家事教室(仮)』を開催する	
計画	<p>目標</p> <p>生活実態調査実施地区で男性を中心とした家事教室を開催し、高齢男性の自立支援を行う。</p>	
	<p>2023年度の取組</p> <ul style="list-style-type: none">・生活実態調査の結果を実施地区で共有し、高齢世帯又は独居の男性を対象とした『男の家事教室』を開催する。・調査結果で妻が家を空けられなかった要因から、食生活を中心とした健康的な生活に必要な生活能力に着目した講座を開催する。・当該地域でのラジオ体操や自主グループも男性の参加が少ないとことから、男性は交流の機会が少ないことが推測される。棟単位で開催する交流の場『井戸端会議』を継続し、地域での支えあいを促進する	
	<p>活動指標</p> <p>『男の家事教室』の開催</p>	
	<table border="1"><tr><td>目標値</td><td>1回</td></tr></table>	目標値
目標値	1回	
<table border="1"><tr><td>実績値</td><td></td></tr></table>	実績値	
実績値		
<p>2023年度の成果</p> <p>(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)</p>		
<p>2024年度に向けた課題</p> <p>(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)</p>		

	取組名②	通いの場の周知と不足している地域での活動支援を行う
計 画	目標	高齢者の社会参加促進のため、通いの場の周知と、不足している地域での活動支援を行い、希望する方が参加できる資源を整える。
	2023年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源冊子の年1回の更新を継続、配架する場所を増やし周知を行う。 ・通いの場活動支援として定期的に訪問し、活動状況・新規受け入れ状況の把握・不足している地域の把握を行う。 ・通いの場が不足していると思われる原町田・中町地区での新規立ち上げを行う。 ・既存グループへの活動支援として『ちょい足し講座』を開催する。
	活動指標	社会資源が不足している地域での町トレ立ち上げ
	目標値	一か所
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
実 績	2024年度に向けた課題	
	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)	

取組名③		2か所目の認知症カフェを開催する
計 画	目標	現在開催している原町田あんしん相談室まで足を運べない方のための集いの場としてカフェを開催する
	2023年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・駅より北のエリアで活用できる会場の情報収集を行う。 ・現在開催している認知症カフェの参加者や認知症サポーター、家族会メンバーからカフェに対する意向を聴取する。 ・出張型開催で参加者やサポーターとの運営企画を行い、段階的に定期開催・定着を目指す。 ・参加者の参加動機等の把握に努め、ニーズに応じた活動内容を検討する。 ・家族会や家族介護者教室との連動を図り、認知症に悩む家族の支援を行う。
	活動指標	『オレンジ café ポピー2(仮)』の開催
	目標値	2回開催
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
実 績	2024年度に向けた課題	
	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)	

2023年度町田第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

本町田地域は17地区からなる本町田町内会と町内会に所属していない自治会、及び地域で構成されている。宅地開発が特に進んだ30~40年前から住んでいる世代を中心に近年では若い世代が移り住む新興住宅地も増え始めてきたが、高齢化率は概ね横ばいの32%で推移している。

コロナ禍において、既存の「通い・集いの場」の多くが休止・中止を余儀なくされた。地域フレイルの進行、高齢者の孤立が課題といえる。また、オンラインツールの活用が難しい地域住民がいる現状も踏まえて、どのように地域のつながりを醸成するかについて課題と捉えている。(本町田地区全域)

【現状と課題②】

本町田地域では、自分や家族が介護に困った上で、或いは近隣の方から事が起きたため相談することが多く見受けられる。また、地域性として、近隣の協力関係など、地域でのつながりについて必要と感じている方は多いものの、「自分ゴト」としての地域活動への参加率は低い傾向がある。

本町田地域は市内12地区の中でも高齢化率が非常に高く、地域活動におけるマンパワー不足などを背景に認知症施策「D カフェ」を実施している団体・個人が多い。

「健康」や「認知症」に不安を抱える自分・家族・隣人などが必要とする情報の取得や交流の場がない事が地域課題として挙げられる。(本町田地区全域)

【現状と課題③】

本町田地域では、「死」を連想することに対して、「縁起が悪い」と言う風習や「死=怖い」という文化を背景に、いつか考えなくてはいけないが、まだ元気だからと先延ばしにしてしまう傾向が多くの人にあることが個別相談、個別支援などでしばしば伺える。

また、高齢者支援の現場において、利用者(患者)、代弁者家族、医療や福祉のケア提供者は、必ずしも自らの意思を表明できる機会を与えられているとはいえないという話が医療・福祉の専門職から課題として挙げられてきている。

利用者や代弁者家族は、誰に何をどう伝えるとより良く過ごしていくのか、医療や福祉のケア提供者は、自分がどの立ち位置でACPに関わるのか、何をつなぐ役割なのかなどについて相互に理解を深めておく必要がある。

(本町田地区全域)

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①	拠点型介護予防活動とオンライン介護予防活動の場づくり		
計画	目標	介護予防活動について地域住民が主体的に取り組むことができる場をつくる	
	2023年度の取組	① 重点地域を「本町田公社住宅周辺地区」に定める。歩いて通える場所で運動、趣味活動を継続して行えるよう介護予防教室等を開催する (周辺地区:本町田公社住宅イ号棟、ロ号棟、本町田宿自治会、日向台自治会) ② オンライン相談拠点事業の展開 •本町田地区内 3 拠点を実施日毎に変えながら巡回し開所する •自主グループ活動に出向する「出張相談サロン」をニーズに合わせて開催する •専門講師と町ネットセンターによる相談サロン方式で運営する •住民同士のオンライン活動や新しいつながりづくりを支援する	
	活動指標	①介護予防教室の開催数 及び 参加者数 ②相談拠点の開催数 及び 相談者数	
	目標値	① 5 回・延べ 50 名 ②30 回・延べ 300 名	
	実績	実績値	
		2023年度の成果	
	実績	2024年度に向けた課題	

	取組名②	センター主催の D ブックス・D カフェの開催
計 画	目標	「健康」や「認知症」に不安を抱える自分・家族・近隣住民などが、必要とする情報の収集や交換が気軽にできる場をつくる
	2023年度の取組	本町田あんしん相談室を拠点とした D ブックスの展開 「健康」や「認知症」を主テーマにしつつ、広く多世代に対するメッセージ性も持ちながら、住民同士のつながりづくりを踏まえて取り組む ① 地域活動「きんじょの本棚」への参加と認知症関連書籍の充実 ② 地域住民との協働の元、D カフェを開催する ③ 認知症サポートー養成講座の開催と活動意向者の発掘 ・活動意向者同士がつながることができ、認知症普及啓発活動の情報が容易に取得できるネットワークづくりを進める
	活動指標	① 認知症関連の書籍数。センター又は地域の刊行物への記事掲載 ②③ 開催回数及び参加者数
	目標値	① 15 冊・2 回・1000 部 ②8 回 ③3 回・延べ 30 名
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
実 績	2024年度に向けた課題	
	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)	

取組名③		ACP を地域住民と考えるセンター単独地域ケア推進会議の開催
計 画	目標	
	地域住民に向けた ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の普及啓発、地域住民と専門職間のつながりづくりを行う。	
	2023年度の取組	
	ACP を地域住民と考えるセンター単独地域ケア推進会議を開催する <開催方法> ・在宅診療を現職で行う医師による講義の時間を設ける ・本町田、藤の台地域の住民を主たる対象者とし、センターだけでなく地縁団体等の協力も得ながら参加者を募ることとする。 ・専門職については担当地域の自治会・町内会や地区協議会活動に参画のある方を中心に参加者を募ることとする。(医療機関、薬局、福祉事業所など)	
	活動指標	
	① 開催回数 ②参加者数 ② 開催報告を兼ねた ACP の普及啓発チラシの作成、配布	
実 績	目標値	① 1 回 ②40 名 ③500 部
	実績値	
	2023年度の成果	
	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)	
2024年度に向けた課題		
	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)	

2023年度町田第3高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

玉川学園・東玉川学園地区において、独居高齢者や高齢者世帯の増加と共に、これまで地域活動を行ってくれていた住民も高齢化し、町内会加入世帯率は50%を切り、地域活動をする人材が不足している状態である。地域づくりをするための若い世代を取り込めていないことが課題となっている。加えて、玉川学園地区は住宅地であるが、高齢化に伴い空き家傾向にあり、空き地対策が課題となっている。

また、南大谷地区は比較的若い世帯が増えている地区であるが、一区画が売りに出されると、その区画に十数件の戸建てが建ち、新しい住民が一举に増える状況にある。

新たな転居者と従来から住んでいる住民の交流が希薄なことが課題となっている。

【現状と課題②】

現在、町トレは18ヶ所、約498名が参加している。「町トレ支え合い連絡会」にて「会場が確保できずグループを立ち上げることができない」との意見が上がっている。

特に玉川学園7丁目・8丁目、東玉川学園地区においては、こすもす会館1ヶ所に活動会場が限定されており、坂の途中に立地していることから、参加を断念する高齢者がいるのが現状である。徒歩圏内にフレイル予防や交流のための集いの場が少ないことが課題となっている。

【現状と課題③】

認知症高齢者を支える家族が、共依存や引きこもり、精神疾患をもっているなどの状況にあるケースが増えている。介護保険制度を利用している場合でも、日々の介護の中で暴言・暴力、不適切介護、ネグレクト等の虐待事案に発展する危険性を常にはらんだ状況にある。また家族自身が介護保険の利用を拒否するケースもあり、支援センターが定期的に連絡を入れて状況確認等を行っている。支援センターでは認知症サポーター養成講座の開催に加えて、認知症のさらなる理解を深めるために啓発講座を年1回開催しているが、認知症サポーターの活用までには至っていないのが現状である。地域住民を含めた関係機関との情報共有が不十分なために、認知症の人を早期発見及び支援する機会を損失していることが課題となっている。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

	<p>取組名① 若い世代が参加できる地域ケア会議等を増やし、繋がりを強化する。</p>						
	<p>目標 若い世代と繋がりを持ち、見守りや地域活動の担い手として活躍できる人材を増やす</p>						
	<p>2023年度の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南大谷地区にて「防災」を切り口とした多世代の繋がりを図ることを目的に、今年度も子供向けの防災体験会(地域ケア会議)を開催する。子どもと高齢者の更なる交流ができるようイベントを開催する。 ・玉川学園地区にて「第3回妄想の花を咲かせましょう。(仮題)地域ケア会議」を開催し、これまでの成果の確認や新たな企画について意見交換を行い、地域活動の新たな担い手との繋がりを強化する。 ・玉川学園町内会・町5小 PTA・児童館と協力し、アクティブシニアの参加のきっかけづくりとあんしんキーホルダーの周知を兼ねて、小学生通学路沿いの高齢者宅に個別訪問する。 ・前年度町5小にて「認知症の基礎知識の普及と他者理解」の公開授業は、今年度学校長よりオファーを受け、6月10日道徳公開授業(差別・偏見をなくす)の時間に継続開催する。 						
	<p>活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南大谷地区・玉川学園地区地域ケア会議開催のための打合せ会議数と地域ケア会議の会議数。 ・高齢者戸別訪問によるあんしんキーホルダー呼びかけ件数。 <table border="1"> <tr> <td>目標値</td><td> <ul style="list-style-type: none"> ・打合せ会議数 5回 地域ケア推進会議2回/年 ・呼びかけ件数 30件/年 </td></tr> </table>	目標値	<ul style="list-style-type: none"> ・打合せ会議数 5回 地域ケア推進会議2回/年 ・呼びかけ件数 30件/年 				
目標値	<ul style="list-style-type: none"> ・打合せ会議数 5回 地域ケア推進会議2回/年 ・呼びかけ件数 30件/年 						
	<p>実績</p> <table border="1"> <tr> <td>実績値</td><td></td></tr> <tr> <td>2023年度の成果</td><td>(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)</td></tr> <tr> <td>2024年度に向けた課題</td><td>(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)</td></tr> </table>	実績値		2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)	2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)
実績値							
2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)						
2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)						

取組名②		空きスペース等を活用し、新たな集いの場と参加者の開拓を行う。
計 画	目標	高齢者にとって外に出かける事に意義があることを周知し、歩いて通える集いの場を増やすことで、フレイルを予防し、近隣との繋がりを保つことができる。
	2023年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・3年前より地区社協主催「街かど・なんでも相談室」に奇数月第4火曜開催時にセンター職員が協力している。2023 年度から開催場所がコミュニティセンターとなるのを機に、空きスペースとなっているウッドデッキを利用し、コラボ企画として「ご近所さん会✿お庭カフェ」を行い集いの場を実施する。 ・南大谷地区児童館との高齢者グループでボッチャ大会を開催し、多世代交流に繋げる。今年度はトライアル開催とし、次年度以降の継続を目指す。
	活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ご近所さん会✿お庭カフェの開催数。 ・ボッチャ大会 開催数。
	目標値	<ul style="list-style-type: none"> ・ご近所さん会✿お庭カフェ開催 1回/年 ・ボッチャ大会開催 1回/年
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

取組名③		認知症の人を早期発見及び支援するため、地域での支援者を養成する。
計 画	目標	地域の社会資源とのネットワークを構築して、認知症の人を適切な支援に繋げる。
	2023年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・玉川学園・東玉川学園地区にてコロナで休止中の見守りネットワークの再開・継続を支援する。 ・認知症サポーターの活動の場づくりとして、9月世界アルツハイマー月間に認知症サポーターと共同企画にて南大谷で普及啓発のイベントを開催する。
	活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ・あんしん連絡員見守りブロック会議開催数。 ・認知症普及啓発イベント開催数。
	目標値	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りブロック会議数 1回/各ブロック 計4回 ・認知症普及啓発イベント 1回/年
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)
実 績		

2023年度南第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】 “認知症とともに生きるまちづくり”の推進 と家族支援

認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続していくには、医療や介護など専門分野との連携の他、地域を中心とした支援体制を整えていくことが重要である。そのため、スーパーや金融機関など生活に密着した窓口や、介護や見守りの担い手となる若い世代に対する認知症の普及啓発が課題となっている。また、独居や高齢夫婦世帯が増えており、認知症の早期発見が難しくなることや、家庭内の問題が複雑化し、介護者の孤立が懸念される。介護者のニーズに合わせた支援が必要である。

また、MCIの状態になってもその人らしく暮らしていけるよう、認知症当事者の声を反映させた地域の居場所や、活躍の場をつくっていく必要がある。

【現状と課題②】 コロナ禍を経たフレイル予防の促進

今年度の重点地域であるつくし野ではこれまで、出張相談会や教室などでアンケートを実施。その結果やJAGESなどの統計からも、運動や認知症予防などセルフケアに関する興味関心が高く、積極的に取り組む地域であることが分かった。一方で、高齢化率が高いことや、閑静な住宅街であることから活動場所が限定されることや、駅までに坂があるため、フレイルによる閉じこもりが考えられる。また、残歯数は多いが、口腔機能は低下傾向とのデータもあり、オーラルフレイルの普及啓発を行う必要がある。スマホ保有率も高いため、オンラインなど多様な手法を使った介護予防事業と、閉じこもりがちな方へのフレイル予防に関する情報発信や交流の場づくりを行い、セルフケアを充実させるよう働きかける必要がある。

【現状と課題③】 住民同士のネットワークを強化し“助け上手・助けられ上手”を増やす

近年、ヤングケアラーやダブルケア等の問題もあるため、幅広い年代に高齢者支援センターを身近な相談窓口として認知してもらう必要があるが、イベントでのアンケートの結果、特に子育て世代に対する周知が不十分であることが分かった。世代問わず相談しやすい体制づくりと、地域での見守る目や担い手を増やしていくため、多世代の見守りネットワークの構築が必要である。

また、独居高齢者が増え、家族がいても遠方であったり、疎遠となっていたりと孤独死も増加傾向にある。住民に対しもしものときの備えとして、緊急時の対策と、日頃の住民同士の横のつながりを作っていく必要性を働きかけていく必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

	取組名①	“認知症とともに生きるまちづくり”の推進と家族支援
計画	目標	幅広い年代に認知症を理解してもらい、認知症になってもその人らしく活躍し続けられるまちづくりを行うとともに、介護者を孤立させない繋がりをつくる。
	2023年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生やその親、高齢者までの多世代に認知症の普及啓発を行い、地域の担い手の発掘や、認知症になっても活躍し続けられる体制を作る。 ・介護者にアンケートを実施してニーズ把握を行い、関心の高いテーマの情報発信や、当事者も一緒に参加可能とするなど家族介護者交流会の開催方法を工夫する。 ・「オレンジみなみ風」の活動を通して、オンラインも活用しながら、認知症当事者や認知症サポーター、関心のある地域住民と、共に過ごせる居場所、活躍の場づくりを行う。また、その内容を広報誌等で発信し、認知症当事者の声を地域に届ける。 ・認知症疾患医療センターと協働し、認知症予防に関する情報発信を行う。
	活動指標	① 「知ってあんしん認知症」の配布数 ②介護者からのアンケート回収数 ③ 当事者も参加できる居場所づくりイベント開催数
	目標値	① 130 部 ②50 部 ③6 回
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

	取組名②	コロナ禍を経たフレイル予防の促進
計 画	目標	重点地域であるつくし野を中心に、フレイル予防の普及啓発を行い、社会参加の場の創出とセルフケアの充実をはかる。
	2023年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・つくし野支え合い連絡会を通じ地域のニーズに即したフレイルの普及啓発を行う。 ・集いの場の少ないつくし野からも通える場として、小川会館で健康体操を開催。 ・歯科医による講演でオーラルフレイルの意識を高め、生活習慣の見直しのきっかけ作りを行う。 ・既存グループへの訪問や実態把握などで、「外トレ」やフレイル予防に関する資料を配布、発信しセルフケアの充実をはかる。 ・閉じこもりがちな方には、ICTも活用し情報交換や交流の場づくりを促進する。 ・多世代が参加するイベントでフレイル予防について周知し、若い方から関心を持ち取り組んでいただく。
	活動指標	<ol style="list-style-type: none"> ① フレイル予防・介護予防の教室参加のべ人数 ② フレイルに関する情報誌の配布数
	目標値	① 140 名 ② 200 枚
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

	取組名③	住民同士のネットワークを強化し“助け上手・助けられ上手”を増やす
計 画	目標	
		世代を問わず相談しやすい体制づくり。 住民同士の横のつながりを作り、見守る目を強化する。
	2023年度の取組	
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントの参加や出張相談会の開催で、幅広い年代の地域住民と平常時からの関係づくりを行い、気軽に相談しやすい体制づくりを行う。 ・地域の半数が民生委員不在となっていることや他者に対する警戒から情報が集まりづらい状況であること、元民生委員や老人クラブの役員等からの相談は多いが個別でのセンターとつながりに留まることから、つくし野支え合い連絡会を通じて、住民同士や事業所の横のつながりを作る。 ・地区社協立ち上げ後、多職種相談会などの企画・参加を通じて多分野と協働し、個々のケース解決に取り組むとともに、地域課題の抽出を行う。 ・地域ケア会議や勉強会を通じて、アルコール依存症や 8050 など多問題家族への対応を CM とともに検討し、相談しやすい体制を作る。 ・医療未受診者リストを活用し、個別訪問にて安否確認含めた実態把握を行うとともに、健康診断の推奨や、あんしんキーホルダーの登録を促し連絡先の把握を行う。
	活動指標	
		① 多世代が参加するイベントや場所での出張相談会の開催数 ② 勉強会・地域ケア会議の開催数 ③地域住民や事業所、店舗からの相談数
	目標値	① 9回 ②4回 ③50 件
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

2023年度南第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

南成瀬地域は、成瀬駅に近く、年齢層が生産年齢人口帯の若い住民の転入が多く、昔からの住民と転入してきた住民のつながりが希薄で、地域住民間においても交流が少ない。2022年度にアプローチした南成瀬7・8丁目は、地域交流の場として「いこいの場」が立ち上がったが住民間の交流が活発になったとは言えない段階にある。周知及び参加機会のサポートが必要である。

また、成瀬駅前ハイツでは、センターとの関係性の構築が進まず、住民から相談が来る段階においては、すでに状況が悪化していることが多い。近年においては、民生委員や管理事務所からの相談が増えている。2022年度の圈域フレイルチェック会において、フレイル予防や健康増進等に興味関心のある住民が一定数存在することが把握できた。

【現状と課題②】

第5都営見守りネットワークでは、構成する老人会が補助金をもらわない団体に移行し、会長も入れ替わりがあり、見守りネットワークの今後の運営について相談が届いている。小田急金森泉自治会の見守りネットワークにおいては、メンバーが固定化され、年齢を重ねてきている状況があり、後継者についての懸念がある。その他地域では見守りネットワークは名乗らないものの、町トレの立ち上げが年々増え、関係者間での見守りは充実している傾向があり、互助の形の変化していることが伺える。参加できない層の見守りを担っている民生委員も代替わりで、欠員地域が増加。市営・都営住宅のLSAも入れ替わり、地域住民へのアプローチを模索している。

【現状と課題③】

36の自治会、15の老人会、19の町トレをはじめ、センターとの関わりある団体は100を超えるが、活動休止、解散となった団体も少なからずある。コロナ禍の影響はあるものの、以前からの課題でもあり、会員の高年齢化と新規加入者の減少が根本要因であると分析している。自治会・老人会の加入者数は減少の一途。各会では、取り組みを変える・増やすなど打開策を模索するも良案は見当たっていない。2022年度、高ヶ坂・成瀬地区協議会事業推進会議（12月）にて、南成瀬中学校他学校の人材不足及び課題を把握。高齢者の地域貢献の場として活用することができることを地域ケア会議にて確認した。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名① 【引き出す】住民主体の地域活性力向上+リアルニーズ抽出	
計 画	目標
	南成瀬 7・8 丁目:地域住民が課題を見つけ、取り組みを考え、実行し、振り返り、活動を見直し、改善していく力を引き出す。結果として、交流の場に、新しい住民が継続参加している。 成瀬駅前ハイツ:センターの取り組みを継続的に実施。顔の見える関係づくり+定期連絡を取り合える関係づくりへ展開し、住民の声に基づいたリアルニーズを引き出す。
	2023年度の取組
	南成瀬 7・8 丁目のいこいの場を起点に、住民主体で地域活性を進めていく。センターによる支援(見守り普及啓発講座、認知症サポーター養成講座等)に加えインフォーマル資源として、ライフキネティック(運動に脳トレを組み合あわせた新エクササイズ)、地域の新聞組合の主催する認知症予防交流会等の活用も視野に広報協力し参加促進サポートを行う。 成瀬駅前ハイツでは、あんしんキーholder登録会や介護予防普及啓発講座等を活用し、関係構築のアプローチを開始する。コロナ禍が終わり再開が検討されている、成瀬駅前祭り、成瀬が丘商店街祭りなどに参加し、周知活動を行って関係構築に活かしていく。中期的には、町トレ等集まりの場をハイツ内において立ち上げる。
	活動指標
	① 見守り普及啓発講座・認知症サポーター養成講座の開催回数 ② 地域団体が行う講座等に関する支援(講師紹介・広報等)回数 ③ あんしんキーholder登録会の開催回数 ④ 介護予防普及啓発講座の開催回数
	目標値 ① 各 1 回 ②3 回 ③2 回 ④1 回
	実績値
	2023年度の成果 (目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題 (2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

	取組名②	【つなげる】選べる地域資源メニュー+セット展開
計画	目標	団体の会長やメンバーの入れ替わりがあつても、地域とのつながりを引き継ぎ、会の維持・発展の一助となるよう、センターの実施する各講座等が選べるメニューを作成し交付する。
	2023年度の取組	自治会・老人会などの会長やメンバーの入れ替わりと会員登録者数の減少が進む中、センターとの関係性や地域資源のつながりが切れてしまわないよう、地域資源リスト情報に介護予防や認知症予防の講師等情報や定期イベント情報等を追加した「地域メニュー(仮称)」を作成し、地域団体に交付する。メニューの選択の傾向から、ニーズにあつた内容に更新をしていく。 また LSA が定期的な地域交流機会の場づくりを検討しているため、見守り普及啓発講座+認知症サポーター養成講座+介護予防普及啓発講座などを年間計画した「あんしん講座パック(仮称)」を新たに整備し、地域の場づくりに役立てて頂く。
	活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域メニューの作成・更新 ② あんしん講座パックの仕組化・見直し ③ 地域メニューの団体等配布数 ④ あんしん講座パックの実施回数
	目標値	① 年2回 ②年2回 ③50か所 ④2回
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

取組名③ 【相互支援】介護予防・認知症予防の場づくり×地域課題解決	
計 画	目標 地域活動団体を窓口とした地域課題解決のためのネットワークを構築し、地域貢献の活躍機会を生み出す。 「高齢者＝支えられる側」のイメージを払しょくするきっかけをつくる。
	2023年度の取組 地域ケア会議等を通して、地域団体と機関と地域高齢者のネットワークを構築し、高齢者の介護予防を推進する機会の提供を行う。 介護予防サポーターのように、いきいきと活躍される方がいる傍ら、多くの高齢者が自身を「支えられる側」と認識しており、また公的な機関でさえ連絡・相談することに勇気がいる人もいることが、総合相談や地域イベントなどを通して多数確認されている。一方で、団体に所属していれば難なく関係構築ができる傾向がある。 その性質を生かし、団体等を通して高齢者が地域企業や機関、若者、子供等の役に立てる仕組みをデザインし運用を開始する。中・長期的には地域団体が地域高齢者と共に活動を進めていく地域づくりにつなげていく。
	活動指標 ① 地域ケア会議の開催数 ② 高齢者の地域貢献の場づくりの仕組み構築 ③ 町ネットオンライン・共通の連絡ツールの実用団体増加数 ④ 地域団体から高齢者団体へ依頼が来た回数 ⑤ 地域課題解決件数
	目標値 ① 年2回 ②年2回 ③10団体 ④10件 ⑤1件
	実績値
	2023年度の成果 (目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題 (2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

2023年度南第3高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

2年連続で地域ケア会議を開催した大規模オートロックマンションのエステスクエアでは、まだまだ地域住民の当事者意識の醸成が課題で、社会的孤立を防ぎ、深刻な事態に陥る前に支援につなぐため、認知症予防やフレイル予防のためにも継続的な働きかけが必要である。また、個別支援の中では、それまで世帯を支えてきた高齢者が疾患や虚弱のために要介護状態となってから、同居家族の精神疾患やひきこもり、経済的困窮や衛生環境の悪化等の課題が表面化するケースが増えており、障がい者支援センター、保健所、子ども家庭支援センター等の他機関とのスムーズな連携が必要である。併せて、地域の中で課題を抱えた方々を早い段階で支援に繋げていくためのネットワーク作りも課題である。

【現状と課題②】 全域

各エリアで開催してきた支え合い連絡会等で共通する地域課題として、場(場所・機会)の問題が多く挙がっていた。

場所:自治会館がない、コミュニティセンターなどは予約が定期的に取れない、料金が高いため継続して利用できない、坂などの環境もあり徒歩圏に集える場所がない

機会:趣味や生き方が多様化する中で、既存の活動だけでは趣味・生きがいなどのニーズを満たせない、世代間で交わる機会がない

情報:高齢者はオンラインに対する苦手意識が強い傾向にあるため、ニーズにマッチする必要な情報を取得しづらい

上記課題に対して、ハード・ソフト面での新たな場の開拓をおこなうと共に、情報を必要とする人に届ける仕組みづくりが必要となる。

【現状と課題③】 成瀬地区

もともとサークルや趣味活動が少ない地域であり、さらにコロナ禍の影響もまだ残る中で、世代間の交流、つながりが少ないのでないかと考える。南第3エリア全域と同様に、高齢者における「フレイルあり」の割合が高く、85歳以上ではさらに高くなっている。また高齢化により活動継続が困難となる既存の自主グループも出てきている。団地の高齢化率は非常に高い一方で、成瀬3～5丁目のような子育て世代が多い地域も含まれ、地域の中に保育園、幼稚園、小学校、高校、高齢者施設が並んでいる。またスポーツに興味のある方が多い地域もある。既存の自主グループの活動継続支援をするとともに、多世代で取り組めるスポーツを提案し、住民同士のつながりが生まれる場所作り、戸外でも活動可能な介護予防・フレイル予防に取り組んでいく必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

	取組名①	相談しやすいネットワーク構築のさらなる推進
計 画	目標	地域住民が必要としている情報の提供、住まいや食など地域住民の暮らしを支える関係者との情報交換、専門職の多機関連携を並行して推進することで、圏域内の誰もが相談しやすいネットワークを構築できる。
	2023年度の取組	①大規模オートロックマンション(エステスクエア)特有の課題の把握と当事者意識の醸成に向けて、自治会と協働して相談先の周知や地域ケア会議を開催しながら、継続的な支援を行う。 ②多機関で連携して対応した複合的課題を抱えるケースについて振り返り、その事例を用いて勉強会を開催して、各機関の役割の相互理解を深める。 ③自治会・老人会や JKK、都営住宅担当者、近隣のスーパーや飲食店等の店舗に対して個別訪問を実施して、共に状況や課題の共有を図り、生活課題を抱えるケースに対して早期の介入ができる関係作りを行う。
	活動指標	①地域ケア会議の開催回数 ②勉強会開催に向けて働きかけた関係機関の数 ③個別訪問(情報交換)の延べ件数
	目標値	①1回 ②10機関 ③20件
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

	取組名②	場所・機会・情報が循環する仕組みづくり
計画	目標	地域住民が自宅近くにある通い場や、自分の興味のあること・趣味・やりがい・生き方にあった活動に参加することができる。
	2023年度の取組	<p>① 住み開き(自宅開放・店舗の空きスペース利用など)のアンケート調査を対象エリアや団体を決めて実施し、新たな活動場所を開拓する。</p> <p>② 地域のみんなの掲示板をホームページ上に開設し、幅広い世代に対して地域住民の『やりたいこと・出来ること』などの情報を発信し、やりがいや生きがいにつながる活動の意欲を高める。多様なニーズとスキル・想い・場を支援センターが間に入りマッチングすることで、世代を超えた住民同士の相互作用で新たな交流を生み出す。</p> <p>③ オンライン相談拠点事業等を行うことで、高齢者のデジタルへの苦手意識を解消し、必要な情報を自ら取得できるよう支援する。</p>
	活動指標	<p>① 調査実施回数</p> <p>② マッチング件数</p> <p>③ スマホセンター(オンライン相談拠点)の開催回数</p>
	目標値	①1回 ②10件 ③年12回
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題	
	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)	

	取組名③	やりがいを持って地域に繋がろう	
計 画	目標	自主グループの活動支援、地域の中で多世代が参加できる通い場づくりを行い、介護予防・フレイル予防をさらに推進する。	
	2023年度の取組	<p>① 誰でも楽しめるニュースポーツを中心とした自主グループの立ち上げを、介護予防サポーターと協働して行い、地域の中に多世代で定期的に交流できる場所を作る。</p> <p>② 月間イベントや自主グループ交流会を開催し、自主グループ活動の発表の場を設け、ものづくりの作品展示やワークショップ等の機会をつくることにより、メンバーのやりがい向上と新規メンバーの参加を促し、既存グループの活動継続支援につなげる。</p>	
	活動指標	<p>①グループ立ち上げ数 ②参加グループ数</p> <table border="1"> <tr> <td>目標値</td> <td>①1 グループ　②5グループ</td> </tr> </table>	目標値
目標値	①1 グループ　②5グループ		
実績値			
2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

2023年度医療と介護の連携支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 町田市の現状と課題

センターとして考える町田市における在宅医療・介護連携推進事業の現状と課題を記載してください。

【現状と課題①】

医療と介護の連携協働を推進していく上で、医療側と介護側がお互いの制度への理解を高めていく必要がある。特に退院→在宅、在宅→入院時などは、医療と介護で密接な連携が必要となる重要なタイミングであるが、介護保険側のサービスについて医療・介護関係者が制度を知らない、また、活用方法の理解が進んでいない状況がある。

その為、医療介護関係者が様々なサービスについて知り、市民に向け提案できるような体制を整備していく必要がある。

【現状と課題②】

医療と介護の連携協働を推進する役割を持つ当センターとして、3師会所属医療機関との関係性構築は必要不可欠なものであるが、すべての医療機関と気兼ねのない関係を構築できていない現状がある。

医療と介護の連携協働を推進していくために、医療機関と顔の見える関係性作りを行うとともに、医療機関からの相談をより多く受け付けることで医療と介護の円滑な連携を阻害する要因を浮き彫りにしていく必要がある。

【現状と課題③】

各地域で開催される地域ケア推進会議や個別の総合相談の中に、認知症の方の早期発見や早期の受診支援の必要性や、かかりつけ医と専門医療機関との連携がうまく取れないと言った現状がある事が散見される。市民の方が認知症になつても望む場所での生活を継続できるような支援体制が必要である。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名① 在宅療養に必要な知識を専門職へ提供する				
計 画	目標			
	<p>市民の在宅療養に必要な知識(特に入院時や退院時に関する)を学ぶことで、限りある医療や介護の資源を有効活用できるよう促す。</p> <p>このセミナーで得られた資源や活用の為の知識を地域で開催される地域ケア推進会議や医療介護関係者・市民などへの研修会・勉強会で共有してもらい、サービスを活用していく事でより、市民が望む場所での生活が促進される。</p>			
	2023年度の取組			
	<p>介護保険サービス種別には(看護)小規模多機能型居宅介護という複合型サービスがあるが、現在の利用状況や認知状況は医療側・介護側にもあまり高くない状況がある。</p> <p>このサービスは、(①在宅で生活されている方が、病状などの変化により入院までの必要性はないが自宅での生活は困難な場合の受入れ機関として②入院されている方が、即在宅ではないが在宅生活にシフトしていく為の受入れ機関として)医療と介護が密接に連携協働を行うものである。</p> <p>市内の医療・介護従事者向けに、(看護)小規模多機能型居宅介護に関する研修会を開催し、サービスについての知識習得をするとともに、このサービスの「役割」をどのように活用していくべきのか、医療・介護福祉職が学ぶ機会を持つ事で、医療や介護の連携協働に資することが可能であると考える。</p>			
	活動指標			
	セミナーを1回開催しその研修受講者数			
	<table border="1"> <tr> <td>目標値</td><td>受講者数:50名以上</td></tr> <tr> <td>実績値</td><td></td></tr> </table>	目標値	受講者数:50名以上	実績値
目標値	受講者数:50名以上			
実績値				
2023年度の成果				
(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)				
2024年度に向けた課題				
(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)				

	取組名② 医療機関と連携協働を図れる体制の構築
計 画	目標 医療機関へ当センター及び高齢者支援センターの周知活動を行うとともに、市内各圏域の医療資源の把握、各医療機関と顔の見える関係を築くことにより連携・協働を図れる体制を構築する。
	2023年度の取組 三師会所属の医療機関を訪問し、当センターの機能について説明をするとともに、各医療機関と顔の見える関係を構築する。 訪問の際は、年度改めて開始された事業や再周知が必要な事業など、説明を行い医療介護の福祉の連携協働体制の構築。頼りにされるセンターとしての役割を作る事を念頭に置き訪問を行う。 医療機関との関係性を強化し医療機関からの相談件数を増やすことで医療と介護の連携協働を促進又は阻害する要因等の情報を収集し、そこで得た情報をもとに医療と介護の連携協働を推進する取り組みを検討していきます。
	活動指標
	医療機関からの相談件数
	目標値 年間 170 件以上
	実績値
	2023年度の成果 (目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2024年度に向けた課題 (2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

取組名③		認知症疾患医療センターとの連携協働体制の構築およびかかりつけ医との連携協働体制構築
計画	目標	認知症の方の早期発見・早期診断、そして認知症の方が自ら望む地域で生活を継続していく為に、日常におけるかかりつけ医への定期的な受診や適切な段階で専門医受診ができるような体制構築を推進する。
	2023年度の取組	認知症の方の早期発見・早期診断、そして認知症の方自らが望む地域で生活を継続していく為には、日常においてかかりつけ医を定期的に受診しつつ適切な段階で専門医を受診できるよう、地域にある診療所・クリニックと町田市認知症疾患医療センターとの連携体制の構築が必要である。 そのため、今年度は認知症疾患医療センターと定期的な会議を持ち、現在認知症疾患医療センターとご利用者の紹介・逆紹介の実績がある地域の診療所・クリニックについて調査を行うとともに、両者が連携し診療を行う際の方法やそれに伴う診療報酬上の加算内容などの確認を行う。これをもとに、かかりつけ医療機関・認知症疾患医療センターの相互理解を促進し、ご利用者の望む生活の支援につなげる。 次年度以降は市内のかかりつけ医療機関・介護保険事業所へ訪問を行い、認知症疾患医療センターとかかりつけ医の連携協働の体制づくりに関し意見交換を行いながら連携について検討していくことを目指す。
	活動指標	認知症疾患医療センターとの定例会議数
	目標値	3回(6月、10月、2月)
	実績値	
	2023年度の成果	(目標に対して、2023年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
実績	2024年度に向けた課題	(2023年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)